

見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち

June 2015 vol.14

June						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

◆世直双紙（尾張七ツ寺ほか）

所在地：名古屋市中区大須

交通：地下鉄名城線「上前津」駅西約600m

1819年文政近江の地震は文政2年6月12日未の刻頃（15時頃）、近江国（滋賀県）を震源に起きた内陸の地震です。この地震における名古屋を中心とした地域の被害の様相を記録した史料に、尾張藩士の猿猴庵が挿絵入りで執筆した『世直双紙』という史料があります。猿猴庵は、江戸初期から尾張徳川家に仕えた高力家の7代目にあたり、藩士としての勤めを果たす傍ら、画家兼文筆家としても活躍した人物です。

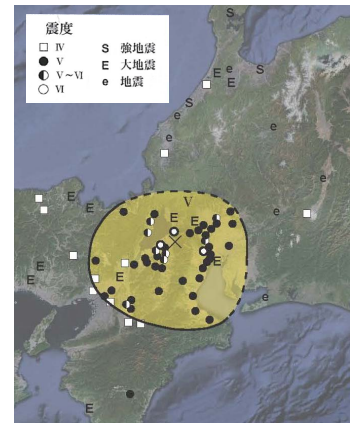
世直双紙には、「八、九十年このかた聞いたこともないこの大地震について、後世に伝えるために自分が実際にした被害だけではなく、耳にした話や他県の被害についてもまとめて書き残す。」と記されており、「熱田神宮は揺れず、地震のときに参拝していた人たちは気づかず、町に出て来て初めて大地震を知って驚いた」「橘町裏の芝居小屋では、狂言の最中に地震が起き、栈敷の見物人が慌てて騒いだ」「本願寺宗の皆受寺（岐阜県海津市）で放談中、初座と後座の間に地震、堂崩れ天井落ちて70余人が即死、負傷300余人とぞ」など、名古屋を中心とした被害の情報を克明に記録しています。



倒壊した練り堀の様子
（愛知県史別編 自然より）

また、地震による被害の様子が豊富に挿絵に描かれており、「高い塀、練り堀ともに破損したが、特に練り堀が多く崩れた。かばやき町堀切筋横三蔵や、若宮八幡宮北の練り堀も多く崩れ、残骸が山のようになった」様子（左段挿絵）や、「はじめは南北に揺れていたが後には回転するように揺れ、近くの店の者は非常に驚いた」七ツ寺の塔の様子（下部挿絵）など、被害を視覚的に伝えるビジュアル災害誌ともいえるものとなっています。また、この世直双紙は当時著名な貸本屋・大惣の商品であり、流行本を取り扱う貸本屋が災害の記録を出版していたことも興味深い点です。

なお、この地震は琵琶湖周辺から濃尾平野の一部、伊勢湾西岸にかけて大きな被害が発生した内陸の地震ですが、活断層による地震に特徴的な局地的な被害の集中や余震の多発がないこと、また震度5の範囲が若狭湾岸～名古屋～伊勢山田～兵庫県東部と広くほぼ円形であり（右図参照）、こうした震度の傾向は近年のスラブ内地震（沈み込む側の海洋プレート内で起きる地震）の傾向に類似していることから、琵琶湖の下あたりまで沈み込んだフィリピン海プレートの内部で起きた地震という説が有力であると言われています。



1819年の地震の震度分布
（愛知県史別編 自然より）

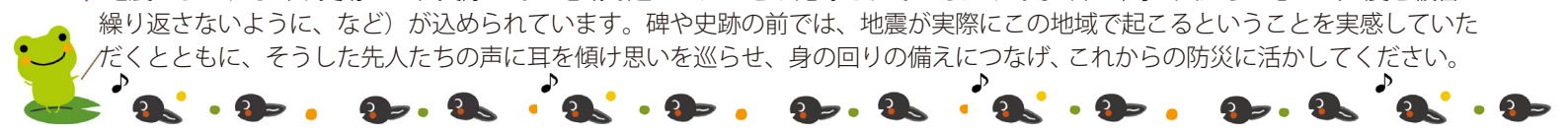


上：傾く尾張七ツ寺の塔（挿絵右端）
（愛知県史別編 自然より）

下：空襲で失われる前の尾張七ツ寺の塔
（ホームページ「尾張七寺三重塔」より）

【http://www.d1.dion.ne.jp/~s_minaga/sos_nanatu.htm】

◆地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



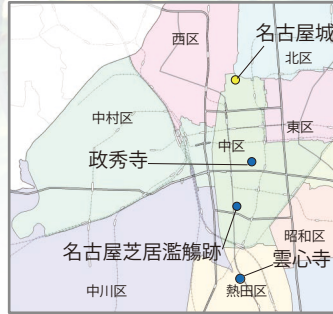
◆ 尾張七ツ寺の周辺には…

● 雲心寺 (震災弔魂碑)

所在地：名古屋市熱田区尾頭町

交通：地下鉄名城線「西高蔵」駅北西約 200m

震災弔魂碑は、明治 24 (1891) 年濃尾地震の際に、尾頭橋の近くにあった尾張紡績の工場が崩壊し、その際に圧死した従業員 39 人を弔うため、雲心寺に建立された碑です。



● 名古屋芝居濫觴跡 (橘座跡)

所在地：名古屋市中区橘

交通：地下鉄名城線「東別院」駅北西約 400m

橘町は名古屋の芝居公許地として最も古く、寛文 5 (1665) 年から、春秋二回芝居興行が認められていました。その後中絶と再興を繰り返しますが、明治 24 (1891) 年濃尾地震によって橘座は倒壊し、ついに途絶えてしまいました。現在では、説明看板 (写真左側) だけが立っています。



◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』 (<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をご覧ください。

★ 熱田神宮 例祭

熱田神宮の例祭は、「熱田まつり」「尚武祭」とも呼ばれ、毎年 6 月 5 日に開催されます。天皇陛下の勅使が参向する、神宮の祭典中最も重要かつ荘厳なお祭りで、皇室の弥栄・国の平安が祈念されます。献灯巻わらや打上花火をはじめ、各種武道、献茶、献花など数々の奉納行事が催され、約 25 万人もの市民が参拝します。

神宮公園での打上花火はこの地方で一番早く打ち上げられる花火であり、また、地元の人々はこの祭りから浴衣を着る習わしがあります。手にうちわを持ち露店をのぞく、夏の訪れを感じさせるお祭りとなっています。

※花火は白鳥公園からよく見えます。

(白鳥公園へは地下鉄「西高蔵駅」下車)



6月のあいちの花

平成 27 年 6 月のあいちの花はユリです。ユリは北半球のアジアを中心にヨーロッパ、北アメリカなど亜熱帯から温帯、亜寒帯にかけて広く分布し原種は 100 種を数えます。



花卉に赤褐色の斑点が入った色の白いユリ (写真) は日本特産の野生種ヤマユリで、食用にもなります。葯に入った赤褐色～黄色の花粉は衣類などにつくと落とすのが難しく、取り扱いには注意が必要です。

● ブレイクタイム ●

♪ 名古屋市科学館

名古屋市科学館は 1962 年に開館した総合科学博物館で、2011 年 3 月にはプラネタリウムドーム「ブラザーアース」を備えた新館がオープンしました。

リニューアルオープンした新しいプラネタリウムは、限りなく本物に近い星空の再現を目指し、ドーム内径 35m という世界一の大きさと映像クオリティを実現しています。新館にはその他にも、マイナス 30℃の展示室でオーロラの全天周映像を体験できる「極寒ラボ」や、高さ 9m の人工竜巻を体験できる装置など、エンターテインメント性豊かな 4 つの大型展示も設置されています。

また、太陽光発電や壁面緑化、制震構造やエレベーター構造の可視化を図るなど、建物自体が展示装置となっています。



プラネタリウム「ブラザーアース」外観

『名古屋市科学館』

所在地：名古屋市中区栄二丁目 17-1

交通：地下鉄東山線「伏見」駅徒歩 5 分

◆ この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaian2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災・減災サイト』 (<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会 (仮称)・名古屋大学減災連携研究センター 平成 27 年 6 月)

